

平成 22 年度「ニホンジカ個体群保護管理」実施報告

I. 実施項目

1. 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）（計画期間：平成19年度～23年度）（以下「保護管理第2期計画」という。）に基づき、個体数調整を実施した。

2. 植生保全対策

保護管理第2期計画に基づき、区域保全対策、単木保護対策を実施した。

3. 生息環境の整備

森林の衰退を抑制し、森林の機能を有効に活かすために、周辺地域での関係機関等による森林整備の取組と連携を図りつつ、森林保全に努めることとしている。そこで、大台ヶ原周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関間の情報共有等を目的に「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催した。

4. モニタリング調査

保護管理第2期計画に基づき、ニホンジカの生息状況や植生への影響について調査を行った。

II. 部会等の開催状況

表1 部会等の開催状況

年	月日	会議
平成 22 年	7月 14 日～15 日	現地検討WG（森林生態系部会と合同での防鹿柵の設置現場視察）
	10月 15 日	森林生態系ニホンジカ保護管理合同部会
	11月 9 日	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議
平成 23 年	1月 25 日	個体数調整WG
	2月 16 日	森林生態系ニホンジカ保護管理合同部会
	3月 3 日	評価委員会

III. 実施内容

1. 個体数調整

保護管理第2期計画に基づき、緊急対策地区の生息密度を10頭／k m²に低減することを目標として実施した。

(1) 捕獲目標頭数

70頭

(2) 実施結果

70頭

(3) 手法

麻醉銃、アルパインキャプチャ、装薬銃（猟銃）、くくりわな

(4) 既存捕獲手法の捕獲効率の向上に関する検討

くくりわなの捕獲効率向上のため、既存のシシキラーに加えて新たにオリモ式を導入

2. 植生保全対策

森林生態系部会と合同で現地検討WGを開催し、保護管理第2期計画に基づき、平成22、23年度の防鹿柵設置箇所について詳細に現地検討した。また、単木保護対策である剥皮防止用ネットについては、東大台において、老朽化したネットの巻き直しと新たなネットの設置を行った。

《防鹿柵等整備の基本方針》

(1) 区域保全対策（防鹿柵）

①実施場所:減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した設置場所を選定。

環境、植生、地形、両生類の産卵場所を考慮するとともに、シカの被食からの保護の緊急性、歩道等からの景観への配慮、設置コストなどを総合的に判断し、まとった範囲で設置する。

(2) 単木保護対策（剥皮防止用ネット）

①実施場所:シカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、平成19年度に引き続き、中道周辺域・尾鷲辻まで実施。

②実施対象:母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種

（トウヒ・ウラジロモミ・コメツガ・リョウブ・アオダモ・マツク・ナカマド等）

③優先順位:剥皮防止用ネット巻き実施から年月が経過している場所（要補修力所）

区域保全対策が実施されておらず（未実施場所）、シカの剥皮害が大きな場所（風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの食害が多い場所）

3. 生息環境の整備

大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議を開催し、関係機関が持っているニホンジカ保護管理に関する情報交換を行うとともに、今後の連携の在り方等について検討を行った。

【構成機関】

近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、上北山村、川上村、大台町、紀北町

【事務局】

近畿地方環境事務所

4. モニタリング調査

(1) 生息密度調査

糞粒法、ルートセンサス、区画法により生息密度指標の把握を行った。

(2) 捕獲個体調査

個体数調整により捕獲した個体の、外部計測を行うとともに栄養状態、妊娠の有無について分析を行った。

(3) 行動圏調査

昨年度 GPS 発信機を装着した 2 個体についてデータを回収した。

西大台で 1 個体、東大台で 1 個体に GPS 発信機を装着した。 (データ未回収)

(4) 植生への影響調査

16箇所において下層植生への影響の状況を調査した。